

一〇
み、階級意識の消滅を願ひ、危険思想の撲滅を圖り、以て精神的にも物質的にも新日本の建設を期すべく提携協力を船主に乞ひたるも東洋汽船會社及濱根商店の二社を除く他の幾十の日本船主は吾人のこの誠意を認めず何等の反響も共鳴もなき時突如として日本郵船會社は吾等のこの尊き救護的精神、犠牲的努力を蹂躪するの暴舉に出でたり。即ち今回の航海手當半減の發表是なり。一重役は單なる小使錢に等しき航海手當なりと云はれたるも會社規定の正規の給料定額通りの俸給を受けこり居らざる船員にとつては航海手當は小使錢に非ずして重要なる收入の一部なり、しかも貴重なる生活費の一部なり殊に屬員中約千五百人の罹災者は從來の給料及手當全部が一期にして灰燼となりたる生活復興の資に宛てんとする今日會社は弱き者の頭に慘虐の

大鉞を揮ふて彼等の復興的精神と生活とを脅威す、吾人の有する正義の解釋にして誤らずんば會社今回の所置は全く暴虐と云ふを得べし。

しかも會社にして事實収入の自然減退、震災の損害等の事情の爲め株主配當、重役手當も低減する故に吾人の手當も又減すべしとせば吾人或は之を承服せん。聞くところによれば會社の株主配當は略んど舊率に近き程度に据へ置き獨り弱者の僅なる手當を減ぜんとす。吾人之を批評するの言辭に苦しむ。一方他の東洋汽船會社の如きは每期缺損を續け乍らしかも郵船に劣らざる震災損害を受け乍ら未だ從業員の手當給料等の減縮を聞かず。たゞ一人郵船會社は特にこの震災に藉口して此暴舉を行ひ以て經濟的と云ふよりも寧ろ精神的に吾人を虐殺せんせり。